

平成27年度 事業報告

部門名： 総務係

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×49%以下

運営方針	結果	備 考
1. 経営基盤の安定	○	
2. 経営方針の確実な理解	○	
3. 新規加入職員が多いことから、育成に力を入れる	◎	
4. 定期的な会議開催により意思疎通を深める	△	
実行方針	結果	備 考
1. 現場職員が持てる能力を発揮しやすい環境づくり・土台づくり	○	
2. 経営者がタイムリーな経営判断ができるための適時・適切な経営情報の提供	◎	
3. 計画的な修繕計画に基づいた、先取りした保守・修繕管理	◎	
4. 車両更新のための積極的な補助金申請	○	申請したが、該当されなかった。
定量的な目標	結果	備 考
定期的なミーティング開催を通じて係内の意思疎通を図る	△	
定性的な目標	結果	備 考
明るい組織：笑顔あふれる活性化した組織	◎	

平成27年度 事業報告

部門名： 給食係

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備 考
1. 施設、サービス、配食との対応の区別理解をする	○	米飯の硬さ等調節区別実施
2. 利用者の食の満足感のアップを図る	○	
3. 研修等での学びの姿勢を忘れないこと	○	
4. 郷土料理や旬の材料の使用を心がけます	○	
5. 安価で良質な食材の使用を選定します	○	物価値上がり商品多くありました
実行方針	結果	備 考
1. 個別の嗜好確認を行う	○	特養、サービス実施
2. ゆったりとした食事時間を作る	○	配膳から下膳まで1時間以上確保
3. 情報収集と周知を行う	○	周知は全て書面にて知らせる
4. 季節に添った料理と地場産食材の使用を行う	○	行事食を取り入れ近隣材料使用
5. 無駄を無くす心掛けを行う	△	電気、水道等にもっと気配り必要
定量的な目標	結果	備 考
1. 配食サービスの年間食数目標は12500食とします	◎	年間食数 14901食 119%
定性的な目標	結果	備 考
1. 安全で安心して安らぎの中での食事	○	ソフト食使用で安全安心アップ
2. 食事で季節を感じ「おいしい～！」と言って頂ける食事作り	○	努力していきます

平成27年度 事業報告

部門名： 業務係

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 医療との連携を図ることで、お年寄りの痛みや苦しみが和らぎ穏やかな生活が続けられるようにします。	○	嘱託医、主治医との医療相談や受診など円滑に行えたことで早期治療を行うことが出来た。
2. 利用者の誕生日を喜び、その方の希望がかなえられるようにします。	○	おおむね全員に行うことが出来た。一方秋冬の利用者の外出は寒さで開催出来ないことがあった。
3. 基礎介護から専門分野まで職員の能力に応じて学習できるよう計画を立てます。	△	随時行うことは出来たが、計画的に回数を行うことは出来なかった。
4. 地域との共生を図れるように、地域施設との交流を図ります。	△	当日、天候の影響で中止となり、日程の再調整が出来なかった。
5. 就業時間、公休数の改定など、介護者が働きやすい環境を整えます。	×	次年度繰越とし、就業時間の改定を計画する。
実行方針	結果	備考
1. 嘱託医、主治医との円滑な関係を図り、必要な時に必要な医療が行えるようにします。	○	嘱託医、主治医との医療相談や受診など円滑に行えたことで早期治療を行うことが出来た。
2. 食堂のテーブルや椅子を購入し、適正な食事姿勢で毎日の食事が楽しく和気藹々と過ごせるようにします。	×	平成30年の施設建て替えまで持越し。
3. お年寄りの願いを叶えるべく、誕生日に希望されたことを担当者が計画・実施します。	○	おおむね全員に行うことが出来た。一方秋冬の利用者の外出は寒さで開催出来ないことがあった。
4. 呼人地域の施設と交流会を行い、地域共生を図ります。	△	呼人長生クラブ(老人クラブ)とのふれあい訪問は実施できた。
5. 一部就業時間と年間休暇日数の改定を計画・実施します。	△	次年度繰越とし、就業時間の改定を計画する。
定量的な目標	結果	備考
1. 入院者を3割(平成26年度630日)減少させます。	×	介護の重度化の影響もあり、入院者が3割増えた。
2. ショートステイ利用者枠1日8名を実施・継続させます。	○	1日平均 7.42人
3. 入所者毎の誕生日会、希望実現100%を実現させます。	△	居室担当者が日程の調整、家族への連絡を行い実施できたが、冬期間の利用者への支援は困難であった。
4. 食食用テーブル4台購入、椅子6脚購入	×	平成30年度の施設建て替え予定まで持越しとなった。
定性的な目標	結果	備考
1. 認知症高齢者、障害を持たれた高齢者の介護の知識を深め・技術を学び、やさしい心で接することが出来る。	○	毎月、言葉使い、対応などやさしく、丁寧な介護を心がけるよう周知・実施してきた。
2. 関わりあった多くの利用者がレインボーハイツで過ごすことで安心され、楽しさ、喜び、笑顔を増やすことが出来る。	○	大きな問題もなく、落ち着いて生活できていました。
3. 介護スタッフそれぞれが専門的知識を学習することで介護職として自信を持ちやりがいのある仕事になる。	○	網走管内老施設研修、法人全体での研修等開催し新たな知識・技術など習得する機会が増えた。
4. 食食用テーブル、椅子、個浴の購入等、日常生活環境を整え、お年寄りが暮らしやすい施設になる。	△	平成30年施設建て替えまで持越し

平成27年度 事業報告

部門名： レインボーハイツ デイサービスセンター

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備 考
1. 利用者が要支援・要介護になっても可能な限り自立した日常生活を送れるようなサービスを提供します。	○	状態などに変わりがあった場合ケアマネージャーと情報共有した。
2. 利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスを提供します。	○	
3. 利用者の社会的孤立感の解消及び心身機能の維持(向上)を図るサービス提供します。	○	
4. 地域の他事業所と連携し、利用者の望む形での在宅生活継続を図ります。	○	希望があった場合、ケアマネージャーに連絡し検討してもらった。
5. 収入・支出を意識することで、利用者数の増減に気を配ります。	○	
実行方針	結果	備 考
1. ケアプランを基として本人のニーズを把握し、モニタリングを通じて質の高い通所介護計画を作成します。	△	
2. 利用日当日でも、本人がやりたい事を思いつけば可能な限り実現できるよう配慮する。	○	出来ることは実行し、出来ないことは、予定を立てて実行した。
3. 利用中は会話を通じ活動参加等への声掛けを行い、自分で出来ることについては、行っていただくよう配慮する。	○	レクなど出来るだけ自分で出来るようお手伝いした。
4. 可能な限り同じ地域、知人・友人同士で一緒に利用日になるよう配慮します。	◎	希望曜日が無い場合は、知人友人と一緒に調整した。
5. H29年度の新総合事業について勉強し、準備をします。	×	
定量的な目標	結果	備 考
1. 一日平均利用者数は、17名(生きがいデイ含む)確保を目標に。	○	1日平均14.8名
2. 毎月の利用者数は、450名(生きがいデイ含む)確保を目標に。	○	
定性的な目標	結果	備 考
1. 毎月、ニーズ把握や満足度調査のためのコミュニケーションを行います。	○	会話の中から希望を拾い出し検討し対応につなげた。
2. 平成27年度からの送迎体制の再構築・安定化を図ります。	◎	

平成27年度 事業報告

部門名: あいむデイサービスセンター

結果凡例: ◎100%、○80~99%、△79%~50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 利用者個々のニーズに合わせた通所介護プログラムを作成していきます。	◎	通所プログラムは勧めました
2. 利用者の声に耳を傾け、言葉遣いや態度に気を付け接客力向上を図ります。	○	
3. 職種に関係なくセミナーや研修会に定期的に参加します。	△	研修会の機会は少なかったです。
4. 地域のイベントに参加し、郷土料理などを取り入れたレクを実施していきます。	○	イベントへは積極的に参加。
5. 各曜日の利用者数を固定し、報酬の低下を補う意識を持ちます。	◎	意識をもって臨んでいます。
実行方針	結果	備考
1. 居宅ケアプランと通所計画の整合を図れるようにモニタリングの質を向上させます。	○	しっかりとしたモニタリングを行っていたか課題が残ります
2. 利用者本位で個別化に配慮しながら、プログラムの増加を図ります。	○	個別での対応は行って来ています。
3. 認知症の理解をテーマに毎月勉強会や研修会を実施します。	×	毎月の勉強会は行えていません。
4. 商店街のイベント・地域のイベントに参加し、網走の歴史を学びます。	◎	イベントには参加しています。
5. H29年度の新総合事業への準備を行います。	×	
定量的な目標	結果	備考
1. 1日平均利用者数23名(介護保険)を確保し、毎月50名を目標に	◎	月平均 564件
2.		
定性的な目標	結果	備考
1. 利用者の満足度を向上させるために毎月聞き取り調査を行います。	○	普段の会話の中で実施しています。
2.		

平成27年度 事業報告

部門名:在宅介護支援センター

結果凡例:◎100%、○80~99%、△79%~50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 利用者、家族への「ママな」「身軽な」対応と「癒し」「安定感」を提供する姿勢	○	当居宅の基本的姿勢は崩さずに提供できた
2. 利用者のサービス管理から健康管理への移行	△	管理まで行かず、念頭において実施した。
3. 高齢者の状態像変化への対応強化(認知症・中重度高齢者)	○	状態変化を見逃さず、随時対応(サービス量、区分変更等)
4. 医療部門との連携	○	「また患者にさせない」ためにも連携を図った。
5.		
実行方針	結果	備考
1. 技術、重度化対応知識の習得(ソーシャルワーク+ケアワーク)	△	ケアワークについての学びの機会が少なかった。
2. サービス提供ネットワーク内での利用者の健康情報の共有と予後予測の習得	○	健康情報と予後について常に検討した。
3. 医療と介護の連携(多職種協働)による認知、中重度高齢者マネジメント	○	
4. 自身が支援者	○	ケアマネ自身が支援者になりサポートすることもほぼできた。
5.		
定量的な目標	結果	備考
1. ケアマネ3名体制とし、各加算の取得をする	◎	特定事業所加算Ⅲ算定、初回加算算定している。
2. 年間955件利用	◎	985件の実績であった。
定性的な目標	結果	備考
1. 3名体制でのチームワークづくりとフォロー体制の構築	○	3名体制となりよりよい関係づくり、連携を図れるようにした。
2. 最新のケアを知る(新しい助言へ)	△	最新のケアについて学ぶ機会は少なかった。

平成27年度 事業報告

部門名： 訪問介護

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 我が家でずっと暮らしたい方をサポートします。	○	利用者毎の生活スタイルに沿って、担当ヘルパーが対応しています。
2. 自分の生活スタイルをできるだけ変えない為のサポートをします。	○	上記に同じく。
3. その方のもっている生活力を引き出すサポートをします。	△	ケアプランに盛り込まれている場合は、一緒に家事等行いますが、難しいケースが多いです。
4. 笑顔の時間が増えるようなサービス提供をします。	○	各々、良い関係作りに努めています。
5. 出来る事を一緒に考え、自立をサポートします。	△	3に同じく。
実行方針	結果	備考
1. 利用者とヘルパーが共に考えたり、共に動いたりしながら、本人の残存機能が活かせるようなサービス提供をします。	△	運営方針の3に同じく。
2. 利用者が不安に思っていることや、生活。体調等の変化を把握して、ケアマネージャーにフィードバックします。	○	ケアマネージャーへの連絡・報告は密に行っている。
3. 他職種との連携を図り、より良いサービスを目指します。	○	2に同じく。
定量的な目標	結果	備考
1. 年間900件。	○	約96%の達成でした。
2. 介護福祉士合格3名。新規採用1名。	×	申込み段階で
定性的な目標	結果	備考
1. 「気づき」を大切にして、より良いサービスを提供する。	○	各々、努力しています。
2. 資格取得を奨励して、レベルアップを図る。	△	H28年度は4名受ける予定です。

平成27年度 事業報告

部門名： 地域包括支援センター

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 高齢者が住み慣れた地域で自分らしい生活を継続することができるよう支援する。	○	ワンストップ相談やお互いに支え合い見守り、地域力なども活用し、自立に向けた支援への働きかけを行なっている。
2. 地域のネットワークを構築・活用し、地域で暮らす高齢者の生活を支える。	○	地域団体との連携や、見守りやSOSネットワークなど普及啓発に努めている。
実行方針	結果	備考
1. 地域包括ケア体制の推進 ～ 2025年問題への対応。	△	団塊の世代が75歳を向かえる2025年は更に医療・介護が高まる。生活支援・介護予防など地域包括ケアシステムの準備を行っている。
2. 介護と医療等の連携、地域・社会資源等の地域包括支援ネットワークを構築。	○	介護・医療連携推進取組継続と、各種団体等へ参加している。
3. 支援困難事例等、介護マネジメント支援の充実 ～ ケアマネ連協の支援(事務局)、	○	介護支援専門員の支援や様々な職種及び地域関係者との連携を図る為、各種会議・研修会への出席協力をした。
地域包括支援センター連絡協議会の活動を積極化する。	○	定例管理者会議及び職種連携会議、全体会議等や交流会を開催した。
4. 地域包括支援センターの円滑な業務と立地環境等を検討する。	○	「ミッション」に沿い、老いることに希望が持てる生活を創造し、社会に貢献できる環境等を検討している。
定量的な目標	結果	備考
1. 介護予防支援は、1職種40件以上、委託40件とし、かつ職種の専門性を深める。	○	直接2,004(1職種41.2) 委託591(49.5)
2. 新総合(地域支援)事業の移行に向けた対象者ニーズの把握を行う。	○	・包括管理者会議・連絡協議会等での議案提示・地域包括ケアシステム関連の研修参加・相談業務等での対象者ニーズ把握している。
3. 要支援から要介護への悪化を予防する。(年間60件以下)	△	実数確認(平成27年度70件)
定性的な目標	結果	備考
1. 新規スタッフを含めた4職種の専門分野を活かすチームワークと協働体制を確立する。	○	部内ミーティング(月1-2回) 情報意見交換(随時報告連絡相談)
2. 他圏域地域包括支援センターとの課題の共有、相談事業の専門性向上を図る。	○	定例包括センター管理者会議(2包括・市役所)網走市地域包括支援センター連絡協議会設立 等
3. 個別課題解決から政策提言に導く地域ケア会議の模索、実施を行う。	○	地域ケア会議2回(高齢者下宿、認知症の支援)、小地域ケア会議1回、在宅支援(個別会議)1回開催。関係者間の方向性の確認になった。

平成27年度 事業報告

部門名： 大曲レインボーハイツ

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 重度化介護に対応でき、利用者に快適な日常生活を過ごしていただけるようハード面での設備を整えます。	○	椅子4脚・手すり2箇所購入。
2. その人らしく、満足した生活を過ごしていただけるために認知症ケアの推進を図ります。	○	認知症内部研修参加 会議内での勉強会実施
3. 一人ひとりの生活のスタイルを尊重しながら、共に生活を楽しく過ごす支援を努めます。	○	ソフト食勉強会 施設内ユニットケア勉強会実施
4. 大曲の地域に根ざした施設として、地域交流の参加を継続し地域に貢献できる施設を目指します。	△	地域行事への参加は継続して行なっている。他準備段階のため△
5. 重度化介護に対応した設備を整えることで職員の定着化を図り、安定した稼働率や小規模利用登録人数の確保に努めます。	△	稼働率・登録人数の確保については目標に到らず
実行方針	結果	備考
1. 利用者に安心・快適な入浴ができるよう、個浴型介護浴槽を一台設置。電動ベッドの3台増床。(3年間で年一台ずつ)おいしく安全に食事をしていただくために、快適な食卓テーブルの椅子の入れ替え。(今年度2脚)	○	個浴介護浴槽の設置は浴室に適したものがなく見送っている 椅子は購入したものも含め、利用者にあった物を利用している。 電動ベッドは介護上必要になった方が数名おり、その都度入れ替え行なっている
2. 認知症の理解を深めるために、内部研修を実施し、認知症ケアを充実できるよう努めます。	○	認知症内部研修のほか、事業所会議内でも実施
3. 体調変化に早期発見・早期受診できる体制(ダブルチェック)を実行し、長期入院を防ぎます。	○	総合記録シート、その他記録を利用する・ソフト食等食事面の見直しをすることで尿路感染・誤嚥性肺炎等による入院はほぼ見られていない(尿路感染は1件のみ)
4. 西コセン・町内会の行事参加の継続。 老人クラブとの交流会(年1～2回)高齢者筋力アップ体操講師の継続。大曲地域での自然災害時の対策委員会の参加。	△	今までの行事等の参加は出来ているが、体操講師・自然災害対策に関しては準備段階で次年度へ繰り越している
5. 小規模登録利用人数を確保し、職員の増員と送迎用の小型車両一台を確保します。	△	小規模登録人数は利用形態を考慮せず(宿泊が多い等)登録を増やした為、人数増加にはいたらず。
定量的な目標	結果	備考
1. 特養:月平均17.1人	△	月平均16.8名 年度初め・年度終わりの入院が多く見られた。誤嚥性肺炎・尿路感染等による入院は減っている
2. 小規模多機能:登録人数平均10人	△	登録人数平均7.8名
定性的な目標	結果	備考
1. 小規模だからできる臨機応変な対応で、利用者・家族が満足できるサービスを提供し、施設全体がアットホームな雰囲気でのなじみの関係を維持・継続していきます。	○	小規模は出来るだけ希望を尊重しながら対応しています。施設全体においては言葉の使い方等の再考でより関係の維持が出来るよう努めています

平成27年度 事業報告

部門名: 向陽ヶ丘レインボーハイツ

結果凡例: ◎100%、○80~99%、△79%~50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 少しでも利用者さんが楽しみある生活につながるようアクティビティの提供に励みます。 入居者の重度化対応に向け介護設備の充実を図ります。	○	年間計画の作成のもと、利用者参加型での取り組みが出来た。必要な介護設備の入れ替えについて出来なかったものは次年度に引継ぎ取り組んでいく。
2. 認知症への理解を深め、専門的な認知症ケアへの推進を図ります。	△	法人全体での研修会の実施を通し実施できた。更なる専門的なケアに取り組めるよう次年度も実施していく。
3. 職員の想いや根拠あるケアの実現に向けて基礎介護の向上を図ります。 利用者さんの些細な変化への気づき、根拠をもった統一したケアの向上に努めます。	△	日頃の申し送りや会議を通し、基礎介護の向上へ取り組んできたが入所稼働率の目標達成へ反映することができなかった。
4. 地元地域を中心に交流、協力、連携、行事参加を図り、地域との関係が途絶えることのない生活を目指します。	◎	これまで取り組んできたことを継続、そして深められるよう取り組めた。
5. 目標に向けた入所者の稼働率の安定、小規模多機能居宅介護における登録利用者の確保に努力します。	○	特養の稼働率達成は至らなかったが小規模多機能では目標を上回る達成ができた。
実行方針	結果	備考
1. 家族との交流行事、外出、季節行事等の企画、実行をします。 電動ベッドへの入れ替えを行います。特養:計5台(年1台/5年)小規模多機能での重度者への容易な受け入れを図れるよう電動ベッドへの入れ替えを行います。計2台(年1台/2年) 入浴介助用のリクライニング式のシャワーチェアへの入れ替えを行います。 ユニット炊飯器の買い替え(3台)、ソフト食への充実に向け、ハンドブレンダーの購入(2台)	○	行事企画は概ね計画に沿って実施できた。設備、備品の購入は炊飯器は3台購入できたが、ベッド、入浴用シャワーキャリーなどは次年度で検討していく。
2. 認知症に対する疾患の理解、認知症ケアの内部研修会計画、実施します。	△	法人全体では全員参加で実施できた。事業所内では次年度の実施を検討する。
3. 介護の基礎知識、技術向上の為の基礎介護の内部研修会の計画、実施をします。 記録の記載、申し送りの勉強会の開催ダブルチェックの実施、困難事例へのケース検討会議の開催。	△	基礎介護の勉強会の実施はできなかったが定期的なケース検討会は行えた。ダブルチェックの体制を次年度に向け変更し実施していく。
4. 地域行事への参加・協力施設広報紙“にじ色便り”の定期的発行(年4回) 地元老人クラブ(向陽クラブ)への利用者加盟、定期例会・行事参加 地元町内会(グランヒル自治会)への加盟の継続、地域防災協力協定への締結協議	◎	実行方針に対する取り組みが計画的に行えた。
5. 退所者が出た場合の新規入所を2週間を目標に速やかな新規入所対応に努めます。	○	概ね2週間以内での新規入所対応ができた。
定量的な目標	結果	備考
1. 特養:ベッド稼働率 94.4%(月平均 17人)	△	稼働率90.3%と目標値より大きく下回り、入院日数、退所者数も多かった。
2. 小規模多機能:登録人数 年間平均10.4人	◎	年間実績登録利用者数11.4人と目標値を上回れる結果であった。
定性的な目標	結果	備考
1. 向陽ヶ丘レインボーハイツだからこその、生活感あふれる施設ケアを目指します。	○	事業所の特性を活かした施設作りを職員一体となって少しずつ取り組んでいた。
2. 利用者、家族、地域との馴染みの関係作りを大切にします。	○	これまで同様に馴染みの関係作りを考慮して取り組んでいた。

平成27年度 事業報告

部門名: みなとレインボーハイツ

結果凡例: ◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 利用者とのコミュニケーションを大切にし心の交流を大切にします。	△	
2. 人生の先輩として敬意を持ったサービスを行います。	△	
3. マンネリを防止し利用者の求めるサービスを提供します。	×	
4. 網走の昔を利用者の人生を通して語り合います。	△	
5. 安定した利用者を確保します。	○	
実行方針	結果	備考
1. いついかなる時でも笑顔で挨拶します。	△	
2. 言葉遣いに気をつけます。	△	
3. 内部研修の充実を図り、介護力の向上を図ります。	△	
4. 利用者の家族、地域の子供たちと網走の昔を伝える機会をつくります。	×	機会をつくることができなかった
5. 地域の理解を深める広報活動を行います。	×	広報活動は実行できなかった。
定量的な目標	結果	備考
1. サテライト特養の定員8人を維持し、入院者を出さない健康 管理に努める。	○	特養:年間延べ入所者人数 2751人 稼働率94.3%
	△	小規模:年間利用状況 通い2,082人、泊まり755人、訪問 809回
定性的な目標	結果	備考
1. 内部外部の研修に積極的に参加し、スキルアップを図	○	外部研修:7人参加 内部研修:3回